

高幡地域アクションプランの進捗状況等について

高 幡 地 域 本 部

令和4年2月9日（水）

高幡地域アクションプランの進捗状況等

R4.2.9

高幡地域本部

1 地域アクションプランの令和3年度第3四半期の実施状況（総括）

(1) 総評

全42項目の地域アクションプランについて、実行支援チームを編成し、事業推進に向けた協議と進捗管理を行うとともに、各種アドバイザーを派遣するなど個別事業に応じた支援制度の活用により、それぞれの目標の達成に向けて取り組んでいる。

令和3年度は引き続き新型コロナウイルスの感染拡大によるイベントの中止や地域の観光施設・宿泊施設等への入込客数の大幅な減少、飲食店等店舗の一時休業・営業活動の停止など、幅広い分野で影響が出ている。依然として、先行きが見通せない状況にあるが、新しい生活様式や社会・経済構造の変化に対応するための新たな取り組みや区市町村の独自の支援策を活用した取り組みなど、地域経済回復に向けた動きも見られている。

農業分野では、須崎市、中土佐町、津野町で栽培するミョウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地の活用等を進めるとともに、販売促進に向けた取組を推進することにより、ミョウガの消費拡大を目指している。

また、四万十町においては、四万十栗のブランド化と関連産業を含めた地域産業クラスターの形成を図るため、令和3年5月に新たに整備した加工施設で栗や芋等を利用したスイーツの量産体制が整うとともに、商品開発や販路拡大に取り組んでいる。

畜産分野では、四万十町において、地域の生産者が四万十ポークブランド推進協議会を設立し、安心・安全な豚肉を安定的に提供できる体制を再構築し、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す取り組みを進めている。

また、梶原町では、令和3年10月、集落活動センター四万川が梶原町雉生産組合から事業承継を受け、生産から加工販売の拡大に向けた取り組みを進めている。

林業分野では、四万十ヒノキの集成材商品の販売強化や、組立式サウナなど新商品の開発に取り組んでいる。

水産業分野では、須崎市において、マダイ等養殖魚の加工場の整備により、出荷体制を強化し、販路拡大に取り組んでいる。

商工業分野では、中土佐町において、町内の生産者グループや事業者等で構成する研究会や協議会を設立し、お互いの強みを生かしながら中土佐町全体のブランド力を強化し、地産外商の拡大に向けた取り組みを進めている。

観光分野では、須崎市では「須崎海のまちプロジェクト協議会」を立ち上げ、産官学金が連携して、中心市街地の活性化などに取り組んでいる。

また、津野町では、ツリーアスレチックやジップラインを備えた「フォレストアドベンチャー高知」が、今年度から本格的に運営を開始している。また、四国カルストエリア一帯をブランド化し、津野町全体の活性化を図るため、「星ふるヴィレッジTENGU」及び「遊山四万十せいらんの里」をリニューアルオープンし、交流人口の拡大と町内への周遊を促す取り組みなどを進めている。

(2) 具体的な動き

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.1 くろしおミョウガ生産拡大クラスタープロジェクト(須崎市・中土佐町・津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・JA土佐くろしお</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・津野町 ・(株)E-システム 	<p>[指標]</p> <p>(1) 新規雇用者数(累計)</p> <p>出発点(R元): ー</p> <p>直近値(R2): 0名</p> <p>到達目標(R3): 1名</p> <p>目標(R5): 4名</p> <p>(2) ミョウガを使ったメニューの定番化(累計)</p> <p>出発点(R元): 0品</p> <p>直近値(R2): 0品</p> <p>到達目標(R3): 2品</p> <p>目標(R5): 4品</p> <p>(3) ミョウガ生産拡大面積(土佐くろしお)</p> <p>出発点(R元): ー</p> <p>直近値(R2): 45a</p> <p>到達目標(R3): 55a</p> <p>目標(R5): 200a(累計)</p> <p>(4) ミョウガ出荷量※園芸年度9~8月</p> <p>出発点(R元): 3,614t</p> <p>直近値(R2): 3,620t</p> <p>到達目標(R3): 3,680t</p> <p>目標(R5): 3,800t</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 新規雇用者数(累計)(R3.12月末): 1名 (対前年同期比: 100%)</p> <p>(2) ミョウガを使ったメニューの定番化(累計) (R3.12月末): 6品目 (対前年同期比: ー)</p> <p>(3) ミョウガ生産拡大面積(R3.12月末): 91a (対前年同期比: ー)</p> <p>(4) ミョウガ出荷量(R3.12月末): 3,528t ※園芸年度9~8月 (対前年同期比: 97%)</p> <p>「ミョウガの生産拡大」「ミョウガの販売促進」「ミョウガの収量・品質の向上」JA土佐くろしお管内連絡協議会で一次・二次・三次WGの年間計画について共有(5/24)</p> <p>○ミョウガの生産拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国事業・県事業を活用した整備(ハウス91a、環境制御装置17戸) ・再生ヤシガラ工場(プラント倉庫)完成(10/30)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○ミョウガの販売促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JA高知県とともに販促用ミョウガパンフレット作成、「高知のミョウガを知って5000円をGETしよう！」キャンペーン実施(応募14万4,627件)、CPシールのQRコードでミョウガレシピ紹介(6/1~8/31) アクセス29,317件 ・テレビ番組でのミョウガPR(5/21テレビ東京:ミョウガ和えめん、9/29テレビ高知:やみつきミョウガごはん) ・ミョウガの切り下を利用した加工用向け規格を試験販売(7/10~) ・とさつこ広場でミョウガ料理を検討(ミョウガちらし寿司、巻き寿司)(7月) ・JA広報誌での新ミョウガメニュー紹介(ミョウガませ寿司8月、ミョウガサンド9月) ・観光列車の乗客への消費宣伝(8月、JR須崎駅でのミョウガプレゼント(120パック)、レシピ紹介) ・栄養士向けオンライン調理実演会開催(9/14【東京青果株式会社×新宿区・大田区】) ・タイ王国輸出対応に向けた出荷場の選果こん包施設認証取得(12/9) ・地元小学校出前授業の開催(11/9) <p>○ミョウガの収量・品質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催による栽培指導(計14回、延べ400人) ・ミョウガ炭酸ガス施用効果の試験圃調査(6回、8人) ・腐敗対策のための水質調査、試験の実施(6、7、10月39カ所、目ならし会9回、201人) ・循環型養液システムの推進(11戸導入意向) ・良質種茎の選択、育成、評価(試験圃、成分分析) <p>【課題と今後の対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤシガラ活用スキームの評価 <p>⇒協議会を開催し再生ヤシガラの利活用状況を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ状況下でのミョウガ販売促進 <p>⇒地域内外の事業者と連携した消費宣伝活動の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収量・品質向上に向けた取り組み周知。 <p>⇒現地検討会での情報提供、個別巡回の実施。種茎系統試験圃の調査、品質評価をし、優良種茎の確保。</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.3 梶原産キジ肉の生産・販売の拡大 (梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町雉生産組合 ・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1,458万円</p> <p>直近値 (R2) : 1,429万円</p> <p>到達目標 (R3) : 1,600万円</p> <p>目標 (R5) : 2,200万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>販売額 (R3.12月末) : 981万円 (対前年同期比 : 85.8%)</p> <p>○品質の向上と出荷体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熟成肉の販売 (R3.12月末) : 230,282円 <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町内の飲食店が1店舗増加 ・特産品オンラインショップ「雲の上ストア」でのキジ肉セット販売強化 ・集落活動センターゆすはら西の推進するゆすはらジビエと連携した販促活動を実施 ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用し、販売戦略・事業計画策定を支援 : (R3.7~11月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織体制の見直し ⇒梶原町雉生産組合から集落活動センター四万川への事業承継による加工・販売体制の強化。 ・衛生管理の高度化(県版HACCP認証取得)への取り組み ⇒産業振興推進総合支援事業費補助金を活用した新たな施設(加工場)の整備 : (R4予定) ・認知度向上 ⇒「土佐のきじ祭り(第2回)」を開催予定(R4.3月)
<p>■No.4 梶原産肉用牛の生産拡大による地域産業の活性化(梶原町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(一社)津野山畜産公社 ・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.3億円</p> <p>直近値 (R2) : 0.85億円</p> <p>到達目標 (R3) : 1.6億円</p> <p>目標 (R5) : 1.9億円</p> <p>(2) 出荷頭数</p> <p>出発点 (H30) : 92頭</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>直近値 (R2) : 113頭 到達目標 (R3) : 166頭 目標 (R5) : 186頭</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 販売額 (R3. 12月末) : 10,100万円 (対前年同期比 : 146%) ※昨年度に比べて販売単価が高値のため</p> <p>(2) 出荷頭数 (R3. 12月末) 102頭 (対前年同期比 : 120%)</p> <p>○組織体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から2名増 (3名雇用うち1名は退職補充) ・中山間複合経営拠点施設となり、他事業 (土づくりセンター管理業務等) にも着手 <p>○飼育頭数の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産頭数が計画より増加 <p>○栲原町産牛肉の認知度向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における和牛中心のメニュー提供 (12月1回) ・インターンシップ事業 (新規就農者が就農体験を行う研修制度) 実施 (5月～10月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野山畜産公社の頭数及び経営管理 ⇒中山間ルネッサンス事業により派遣される経営コンサルタントに指導を受けながら、畜産公社・町等による経営会議を開催、毎月の飼育頭数及び経営状況を確認している。
<p>■No. 5 つの茶販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・JA高知県 (高西地区)</p> <p>・津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 茶製品販売額</p> <p>出発点 (H30) : 3,200万円 直近値 (R2) : 1,274万円 到達目標 (R3) : 2,800万円 目標 (R5) : 4,000万円</p> <p>(2) 荒茶販売額</p> <p>出発点 (H30) : 4,039万円 直近値 (R2) : 2,524万円 到達目標 (R3) : 4,559万円 目標 (R5) : 5,000万円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[取組状況]</p> <p>(1) 茶製品販売額(R3.12月末)：1,584万円 (対前年同期比：141.9%)</p> <p>※R2はコロナの影響による外商機会の減により茶製品販売額が減少したが、R3はR2と比較すると新茶まつりの開催やTENGUや空港等での外商機会が増加したことによる増</p> <p>(2) 荒茶販売額(R3.12月末)：2,862万円 (対前年同期比：113.4%)</p> <p>○販売体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新茶まつり開催(5/1、5/8 J Aファーマーズマーケットとさのさと、5/2～4道の駅布施ヶ坂) ・かぶせ茶パウダースティックを使った新商品のデザインの磨き上げ。 ・海外進出サポートを手がける(株)アンビシャス中国オフィスを通して上海の企業8社と商談実施(5～6月) ・有機茶の販路拡大のため(株)天空四万十が企業とZOOMによる商談を実施しスウェーデンへの出荷開始(6～10月) ・せいらの里リニューアルに伴い、茶器の選定やつの茶を使ったメニュー、お茶煎り体験を開発(4月～) ・キリンビール(株)高知支店×津野町「オンラインで乾杯！」イベントの開催(7/10) ・地元小学生へ茶の生産・加工・販売の学習実施(5～12月) ・ツノチャ・マルシェmini@葛屋書店の開催(12/19) <p>○品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶農家への適時摘栽の指導 ・茶工場GAP(生産工程管理)の遵守と農家指導 ・クリーンルームのHACCP遵守 <p>○生産の維持</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放棄茶園の調査 ・放棄茶園の整備 ・キリンビール(株)高知支店と協働の茶縁事業を継続 ・地域おこし協力隊の募集(10月～) ・産振アドバイザー(課題解決型)の導入によるつの茶販売戦略計画の改定に向けた検討実施 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる茶製品の外商機会の減少 <p>⇒町内観光施設、道の駅等での販売強化、SNS、マスコミ</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	等によるPR強化 ・茶製品販売体制の強化 ⇒産業振興アドバイザー（課題解決型）からの指導・助言等をもとに、つの茶販売戦略計画を改定
<p>■No. 6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト（四万十町）</p> <p>《《実施主体》》</p> <p>◎・四万十の栗再生プロジェクト推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)無手無冠 ・清流栗庵 	<p>[指標]</p> <p>JA栗集荷量（西土佐・大正・十和）</p> <p>出発点（R元）：26t</p> <p>直近値（R2）：29.2t</p> <p>到達目標（R3）：38t</p> <p>目標（R5）：50t</p> <p>[取組状況]</p> <p>JA栗集荷量（R3.12月末）：29.5t （対前年同期比：102%）</p> <p>○生産量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せん定講習会（R3.12月末）：1回 ・現地ほ場巡回（R3.12月末）：4回 ・新改植の推進（R3.12月末）：4回 ・特選栗検討会（R3.12月末）：3回 ・選果選別指導（R3.12月末）：5回 <p>○施設機械整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した四万十ドラマ新加工場落成式：5/15 <p>○商品開発、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品開発：8品（しまんとDrops、あうんアールグレイ、焼きいもモンブランなど） ・あうんアールグレイ記者発表：7/7 ・しまんと栗ビール：8/13 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栗出荷量の増加 ⇒低樹高栽培に向けたせん定技術の普及、平地への新植推進 ・製造過程の一部機械化による原価低減および利益増加 ⇒製造数量や工程を見直し、販売方法や売り先ごとの製造アイテム分類及びターゲットの明確化

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.7 四万十町畑作振興プロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十野菜(同)</p> <p>・(株)ハマヤ</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高</p> <p>出発点(H30): 8,525万円</p> <p>直近値(R2): 1億1,628万円</p> <p>到達目標(R3): 9,500万円</p> <p>目標(R5): 1.2億円</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数</p> <p>出発点(H28~R元累計): 9人</p> <p>直近値(R2): 7人</p> <p>到達目標(R3): 9人</p> <p>目標(R2~R5累計): 12人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 四万十野菜(同)売上高(R3.11月末): 8,887万円 (対前年同期比: 102%)</p> <p>(2) 四万十野菜(同)雇用者数(R3.12月末): 7人</p> <p>○こだわり野菜の生産安定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行支援チーム会(R3.12月末): 7回 ・有機現地検討会(R3.12月末): 2回 <p>○6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次化セミナーアップグレードコース受講(R3.12月末): 3回 ・産業振興アドバイザー(課題解決型)を活用した四万十町産有機生姜の高付加価値商品化(R3.12月末): 4回 ・HACCP研修受講(R3.12月末): 3回 ・食品表示研修(R3.12月末): 1回 <p>○外商活動の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談活動(R3.12月末): 2回 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物の生産拡大 ⇒栽培技術向上への支援 ・6次産業化の推進 ⇒各種研修の受講支援、アドバイザーの活用支援
<p>■No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十ポークブランド推進協議会</p> <p>・(農)平野協同畜産</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) (農)四国デュロックファーム 加工品売上高</p> <p>出発点(H30): 9,202万円</p> <p>直近値(R2): 1億1,547万円</p> <p>到達目標(R3): 1.1億円</p> <p>目標(R5): 1.2億円</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<ul style="list-style-type: none"> ・(有)渡辺畜産 ・山中畜産 ・(農)四国デュロックファーム 	<p>(2) (農)平野協同畜産 母豚数 出発点 (H30) : 477頭 直近値 (R2) : 465頭 到達目標 (R3) : 500頭 目標 (R5) : 500頭</p> <p>(3) (農)平野協同畜産 出荷頭数 出発点 (H30) : 9,693頭 直近値 (R2) : 10,724頭 到達目標 (R3) : 11,000頭 目標 (R5) : 11,000頭</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) (農)四国デュロックファーム加工品売上高 (R3.12月末) : 8,576万円 (対前年同期比 : 110%)</p> <p>(2) (農)平野協同畜産 母豚数 (R3.10月末) : 497頭(対前年同期比 : 101.2%)</p> <p>(3) (農)平野協同畜産 出荷頭数(R3.10月末) : 5,927頭(対前年同期比 : 100.9%)</p> <p>○四万十ポークブランド推進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ポークブランド推進協議会総会(8/4) ・ブランド化に関する協議(8/4) ・四万十ポークホームページ作成打合せ(8/4) <p>○(農)四国デュロックファーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商談会等 : 34回 (4月~12月) ・商品開発 : セブンイレブンとの共同開発 「四万十ポークおむすび」西日本・四国で期間限定発売 (4/21~5/12) ソーセージ (業務向け)、四万十ポークのおかず肉 (小売り向け)、生ハム (業務・小売り向け) を年度内に販売開始予定 ・増頭のための施設整備 →繁殖豚舎等4棟 (国畜産クラスター事業:7月内示) ・生産性向上のための衛生対策 <p>○(農)平野協同畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜保健衛生所とのチーム会 (4、6月に開催) ・生産性向上のための衛生対策 <p>○(有)渡辺畜産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・増頭のための施設整備 →畜舎移転予定地の造成中(R3) →国畜産クラスター事業による施設整備 (R4予定)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性向上のための衛生対策 ○山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・臭気対策資材投入→臭気削減効果(臭気測定:6/8) ・生産性向上のための衛生対策 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○(農)四国デュロックファーム <ul style="list-style-type: none"> ・加工・直販所の販売額の増加 ⇒イベントへの出店や営業活動等による販路の拡大及び顧客の確保 ・出荷頭数増に向けた施設整備 ⇒R3年度畜産クラスター事業での施設整備・R4以降の整備計画策定 ○(農)平野協同畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数の増加 ⇒衛生管理と生産体制の向上を図るため、畜舎の施設整備検討 ・加工・直販所の整備検討 ○山中畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・環境対策後の地域住民への理解醸成 ⇒環境対策事業の実施と効果検証 ○(有)渡辺畜産 <ul style="list-style-type: none"> ・出荷頭数増に向けた施設整備 ⇒R4年度畜産クラスター事業での施設整備
<p>■No.14 津野町森林・林業再生プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町森林組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)中成 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>山元貯木場木材取扱量</p> <p>出発点(H30):25,358m³</p> <p>直近値(R2):19,049m³</p> <p>到達目標(R3):28,000m³</p> <p>目標(R5):30,000m³</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>○山元貯木場木材取扱量(R3.12月末):21,340m³ (対前年同期比:158%)</p> <p>※山元貯木場木材取扱量については、昨年度はコロナ禍により例年に比べて取扱量が減少していたことや、木材価格の回復や、津野町森林組合が国有林の間伐事業を受託していることから、対前年比が増加となった。</p> <p>○チップの安定供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チップ生産量(R3.12月末):13,030t (対前年同期比:109%)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>・製紙用、バイオマス発電用共に安定して出荷ができています。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>・自伐林家への木材出荷の促進 ⇒ウッドショックにより高騰した原木価格が、今後どれくらいの価格で安定するか先行きは不透明であるが、価格情報や有利な採材方法を組合員や自伐林家に提供し出材を促していく。</p> <p>・バイオマス発電等への安定供給 ⇒大規模バイオマス発電用等燃料用需要への安定供給を継続して実施。</p>
<p>■No. 15 浦ノ内湾産養殖マダイ等の販路拡大(須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・土佐鯛工房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)小島水産 ・乙女会 ・(株)大東冷蔵 ・高知県漁協深浦支所 	<p>[指標]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数 出発点 (H30) : 6.6万尾 直近値 (R2) : 3.9万尾 到達目標 (R3) : 8万尾 目標 (R5) : 10万尾</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数 出発点 (H30) : 20.3万尾 直近値 (R2) : 17.0万尾 到達目標 (R3) : 25.0万尾 目標 (R5) : 30万尾</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>(1) 海援鯛出荷尾数 (R3.12月末) : 26,047尾 (対前年同期比 : 91%)</p> <p>(2) 乙女鯛出荷尾数 (R3.6月末) : 25,849尾 (対前年同期比 : 77%)</p> <p>※コロナにより飲食店等が休業したことに加え、営業再開後も感染防止の観点から外食需要の低迷が継続中</p> <p>○海援鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋で開催された商談会への参加 (6、11月) ・生産者の増加 (長期研修生の独立1名が、R3.2独立) <p>○乙女鯛関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金 (一般事業・特別分) を活用し、需要が増加している加工品の増産を目的とした加工施設の拡張が完了 (R3.11) ・拡張した加工施設で需要の多い年末年始用の加工品製造に対応 (生産量については集計中)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナにより外食需要の低迷が続いており、出荷尾数及び単価が下落 ⇒早期の取引再開及び新たな販路の拡大に向け、開催される商談会等へ参加を予定 加工品の増産を目的に拡張した加工施設の円滑な稼働と販路の拡大
<p>■No. 16 アメゴ養殖事業の再生拡大（梶原町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・集落活動センターおちめん</p> <p>・梶原町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 売上高</p> <p>出発点 (R元) : 0万円</p> <p>直近値 (R2) : 0万円</p> <p>到達目標 (R3) : 0万円</p> <p>目標 (R5) : 400万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>売上高 : 0万円(対前年度同期比: -)</p> <p>○生産体制の確立・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アメゴ養殖事業部会」設立 (4月) ・「アメゴ養殖事業部会」において、生産計画等の検討 (R3. 4回) ・生産拡大のための既設設備の改修 ・県のオープンイノベーションプラットフォームを活用した課題説明会開催 (12月) <p>○担い手の確保・伝承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手の確保 (R3. 4月～1名) 現事業者の元で養殖事業の研修開始 <p>○販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵等の販売について先進地視察 : 仁淀川町名野川 (R3. 7月) ・産振アドバイザー(課題解決型)を活用した販売戦略及び収支計画策定支援 (2回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手における生産体制の確立 ⇒稚魚の飼育を指導支援 ・養殖池の造成 ⇒規模や池の配置等の検討、造成 ・養殖場のデータ管理 ⇒養殖池のデータ管理システム構築に向けた検討

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 17 葉にんにくを活用した加工食品の生産・販売の拡大(須崎市)</p> <p>《実施主体》</p> <p>・(株)アースエイド</p>	<p>[指標]</p> <p>売上高</p> <p>出発点(H30)：5,418万円</p> <p>直近値(R2)：1億3,539万円</p> <p>到達目標(R3)：7,000万円</p> <p>目標(R5)：8,000万円</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>売上高(R3.12月末)：3,134万円 (対前年同期比：24.3%) (対R元年同期比：69.9%)</p> <p>※昨年度は国のコロナ支援制度による売上が大きかったこと及び本年度はふるさと納税の売上が減少したため</p> <p>○商品の高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品1品を試験販売 ・機能性表示にかかる専門家への相談(7月) <p>○農作業効率化に向けた検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業の機械化に向けた検討・試験 <p>○販路の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県産品商談会への参加(10月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規顧客のリピーター化 ⇒市場そのものが大きくないこと、様々な商品が出ていること等から、より効果的な魅せ方ができるよう専門家の助言を基に、差別化等の検討を行う。 ・販路拡大に向けた検討 ⇒ふるさと納税に力を入れる須崎市と協力しつつ、販売方法等の検討を行っていく。ぬたは須崎市も推す魚と相性が良いことから連携した取組を行っていく。
<p>■No. 19 大正町市場商店街活性化事業(中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・大正町市場組合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町商工会 ・中土佐町 	<p>[指標]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数</p> <p>出発点(R元)：1店舗(H29～R元累計)</p> <p>直近値(R2)：1店舗</p> <p>到達目標(R3)：1店舗</p> <p>目標(R5)：2店舗(R2～5累計)</p> <p>[取組状況]</p> <p>チャレンジショップによる新規開業店舗数(R3.12月末)：0店舗</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○中土佐町中心商店街等振興協議会における協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町中心商店街等振興計画事務局協議(4月、12月) ・久礼お宮さん通り商店街組合定例会 (4月～12月) ・商店街のコロナ対策の徹底 (4月～) ・「春の門前市」開催 (4/18) ・地域おこし協力隊着任 (9月～) <p>○チャレンジショップ事業による空き店舗対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジショップ出店者の募集 (4月～) ・SNS等での周知活動 (4月～) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対応 ⇒商店街のコロナ対策の徹底 ・チャレンジショップ出店者の確保 ⇒チャレンジショップ出店者募集・電子媒体の両方で行うなど情報発信の仕方を検討していく。
<p>■No. 20 中土佐町SEAプロジェクト (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(株)SEAプロジェクト ・中土佐町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 年間売上額 (施設全体)</p> <p>出発点 (H30) : 2.8億円</p> <p>直近値 (R2) : 2.3億円</p> <p>到達目標 (R3) : 3.9億円</p> <p>目標 (R5) : 3.9億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 年間売上額 (R3.12月末) : 1.9億円 (対前年同期比 : 117.9%)</p> <p>※R2年度はコロナの影響が大きかったため (対R元年同期比 : 103%)</p> <p>○賑わい創出への展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部運営協議 (5月～12月 6回) ・ECサイト出品する出荷者調整 (4月～ 2件) ・マルシェなかとさ出品登録者訪問 (7月～9月 4件) ・食品衛生法の改正内容に関する研修への出席 (4月、11月) ・県内イベント出店 れんけいこうち イオンモール (6月、8月) TSUNAGUマーケットinアグリコレット (10月) ・JR四国おもてなし観光列車 (4月～) 久礼駅での物販販売 ・第3回土佐の宴 (名古屋) 出店 (11月)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・高幡地区大商談会参加 (11月) ・新商品販売 (4月～) <ul style="list-style-type: none"> なかとさ苺ビール ・アドバイザー導入意向ヒアリング (4月～5月 3店舗) <ul style="list-style-type: none"> 風工房：商品開発・6次産業化セミナー実践コース受講 (7月～) ・なかとさマルシェ：人材育成、魅力ある店づくり <ul style="list-style-type: none"> 産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)による支援 (12月 2回) <p>○周辺施設との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中土佐町中心商店街等振興計画 事務局協議 (4月) ・黒潮本陣との連携企画実施 <ul style="list-style-type: none"> スプリングフェア実施 (4/1～4/30) 黒潮本陣25周年企画と合わせた道の駅クーポン発行 (12月) <p>○地産外商の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の地産外商に関する関係機関協議 (4月～6月 4回) ・なかとさdo外商連絡協議会 (4月) ・地域ブランド研究会セミナー (6月～12月 7回) ・外商イベント参加 <ul style="list-style-type: none"> MADE IN NAKATOSAフェア参加 (11月 1事業者) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルシェなかとさ(直販施設)への商品の安定供給 <ul style="list-style-type: none"> ⇒出荷者訪問、新規出荷者の掘り起こしを行いながら、品揃えの充実を図る。 ・集客の維持・拡大 <ul style="list-style-type: none"> ⇒新型コロナウイルス感染症の対策の徹底と、状況に合わせた店舗運営やSNS等での情報発信、道の駅なかとさ全体のイベントの企画・立案に関して各テナントとの連携を図り、協力体制を強化していく。 ⇒産振アドバイザーを活用してマルシェなかとさの課題整理をしていく。
<p>■No. 22 中土佐町地産外商の取り組み (中土佐町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)SEAプロジェクト ・企画・ど久礼もん企業組合 ・中土佐町商工会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 商品開発 品目数</p> <p>出発点 (R元)： ー</p> <p>直近値 (R2)： ー</p> <p>到達目標 (R3)：3商品</p> <p>目標 (R5)：10商品</p> <p>[取組状況]</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(1) 商品開発 品目数 (R3.12月末) : 2商品 (対前年同期比 : -)</p> <p>○地産外商に向けた体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかとさdo外商事務局打合せ (4月、6月 3回) ・なかとさdo外商連絡協議会の開催 (4月) <p>○地産外商の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品開発に取り組む事業者 4事業者 (7月～) 2事業者 (6次産業化セミナー実践コース受講) ・地域おこし協力隊着任 (5月) 地域ブランド研究会インスタグラム開設 フォロワー641人 (1/13時点) 地域ブランド研究会HPの更新 ・れんけいこうち イオンモール出店(6月、8月 2事業者) ・れんけいこうちTSUNAGUマーケットinアグリコレット 出店 (10月 1事業者) ・バイヤー招聘と外商支援 ポルシェ企画シェフ (東京) 招聘 (7月) ポルシェ企画フェア (新規市場開拓支援事業関連 : 9月 中止) ・地域ブランド研究会セミナー(6月～12月 7回延べ46人) インスタグラム、YouTube活用、事業計画の策定など ・事業者紹介パンフレット「MADE IN NAKATOSA」作成 (10月 地域ブランド研究会) ・MADE IN NAKATOSAフェア (11月 12事業者参加) <p>○産業振興アドバイザー(課題一貫支援型)による支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着地型の地産外商 : SEAプロジェクト (道の駅なかとさ) 人材育成、魅力ある店づくり支援 (12月 2回) ・発進型の地産外商 : ど久礼もん企業組合 事業戦略策定 (12月 2回) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかとさdo外商連絡協議会の今後のあり方 ⇒協議会のあり方を再整理する。 ⇒新商品開発や情報発信など個別課題への対応

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 24 津野町地産地消・外商販売戦略 (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・(有)津野町ふるさとセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)満天の星 ・(一財)天狗荘 ・津野町 	<p>[指標]</p> <p>(1)直販所総販売額</p> <p>出発点 (H30) : 1.36億円</p> <p>直近値 (R2) : 1.42億円</p> <p>到達目標 (R3) : 1.38億円</p> <p>目標 (R5) : 1.40億円</p> <p>(2)(株)満天の星売上</p> <p>出発点 (H30) : 2.07億円</p> <p>直近値 (R2) : 1.79億円</p> <p>到達目標 (R3) : 2.16億円</p> <p>目標 (R5) : 2.49億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1)直販所総販売額 (R3.11月末) : 0.92億円 (対前年同期比 : 93.7%)</p> <p>(2)(株)満天の星売上 (R2.10~R3.9月末) : 1.76億円 (対前年同期比 : 98.0%)</p> <p>○津野町製品の販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化サポートセンターによる道の駅布施ヶ坂・風車の駅の販売強化に向けた店舗レイアウトの見直し (5/24 : 事前ヒアリング、6/7 : 第1回、6/24 : 第2回、7/5 : 第3回、8/10 : 第4回、10/22 : 第5回、1/13 : 第6回) ・HACCPに沿った衛生管理の実践に向けた研修の実施 (11/5) 及び食品衛生責任者講習の実施 (12/15) <p>○各社の基盤強化と連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ向けた食材供給 ・ふるさとセンターから町内介護施設及び給食センターへの食材供給開始 ・星ふるヴィレッジTENGU土産ショップへ満天の星コーナーを設置 ・満天の星が開発した里芋担々麺のふるさとセンターでの販売開始 (9月~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津野町製品の販売力のさらなる強化 ⇒ふるさとセンターから星ふるヴィレッジTENGUへ供給する食材の拡大の検討 ・ふるさとセンターの経営改善計画策定

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒6次産業化サポートセンター（経営コンサルタント）による経営戦略の策定支援 ・直販農家等、生産者の維持、確保 ⇒地域おこし協力隊の募集、農業アドバイザーの配置による助言・指導の継続 ⇒食品衛生法の改正に伴う直販農家、生産者支援の継続（営業許可、届出制度、HACCP対応）
<p>■No. 25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備（四万十町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <p>・(株)あぐり窪川</p> <p>※地域産業クラスター関連（四万十のうまい豚クラスタープロジェクト）</p>	<p>[指標]</p> <p>豚まん等販売額</p> <p>出発点（H30）：9,300万円</p> <p>直近値（R2）：1.3億円</p> <p>到達目標（R3）：1.9億円</p> <p>目標（R5）：2.33億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>豚まん等販売額（R3.11月末）：8,410万円 （対前年同期比：110.9%）</p> <p>○加工施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧加工場（スイーツ加工場）の高知県版HACCP第3ステージ認証取得への取組（保健所との協議他） ・アイスの発送用としてドライアイスを製造する機器を購入（高知県食品産業総合支援事業費補助金） <p>○商品開発と販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)あぐり窪川との定例会 ・商談会等への参加：12回（4～12月） ・無添加・新パッケージの豚まん販売開始（5月～） ・化学調味料不使用のしゅうまい販売開始（8月～） ・新型コロナウイルス感染拡大による「創業祭」、「あぐりでひんやり夏祭り」の中止 ⇒特設ブースを設ける等して「創業フェア」、「あぐりでひんやり夏フェア」として実施 ・自社サイト上のオンラインショップ（R2改修済）での販売 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売額の増加 ⇒外販を強化するための戦略づくりの検討 ・旧加工場の衛生管理の強化 ⇒高知県版HACCP第3ステージ認証取得 ・道の駅の入込数の減

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>R3年4月～11月の入込数：255,162人 (対R元年同期比：80.6%) ⇒中止となったイベントの代替策としてフェアを実施</p>
<p>■No. 26 四万十町産鶏卵を使用した加工品の生産拡大(四万十町)</p> <p>《実施主体》 ・(株)ぶらうん</p>	<p>[指標] 加工品売上高 出発点(H30)：5,210万円 直近値(R2)：7,635万円 到達目標(R3)：1.1億円 目標(R5)：1.27億円</p> <p>[取組状況] 加工品売上高(R3.12月末)： 6,644万円(対前年同期比：115.5%)</p> <p>○商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発：3品(茶碗蒸し(低価格帯のみ)、カヌレ、オムレット) ・新商品開発に関するセミナー受講等：6次産業化セミナーアップグレードコース(農産物マーケティング戦略課)、商品づくりワーキング(地産地消・外商課)参加 ・貿易に関するWEB講義の受講(4月～7月：3回) ・高知県版HACCP第3ステージ認証取得(10月) <p>○販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高須店閉店(7/25) →フジグラン野市店内にて新店オープン(8/18プレオープン、8/21ランドオープン) ・商談会等：24回(4～12月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工品の安定生産及び販売体制の強化 ⇒新型コロナウイルス感染症対策産業振興推進特別支援事業費補助金を活用した製造機器の強化
<p>■No. 28 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト(四万十町)</p> <p>《実施主体》 ◎・OUCHI企画(同)</p>	<p>[指標] 売上高 出発点(R2)：300万円 直近値(R2)：300万円 到達目標(R3)：1,500万円 目標(R5)：1,500万円</p> <p>[取組状況] 売上高(R3.12月末)：577万円(対前年同期比：－)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○販促、販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興推進総合支援事業費補助金(ステップアップ事業)を活用したHP、リーフレット等の作成、新規顧客の開拓に向けたTURNS商店への出店 ・国際雑貨EXPOへの出店(大阪:9/29~10/1) ・高知ものづくり総合技術展への出展(11/11~1/13) <p>○新商品開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置型サウナ、タイニーハウスの試作 ・端材を活用した商品の開発(コースター、ピンバッチ、鮎竿立て) ・産業振興アドバイザー(課題解決型)の活用による新商品の開発(R4.1~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サウナ、タイニーハウスの対候性の評価及び検証 ⇒関係機関、大学等との連携を検討 ・樽の自社製造に向けた取り組み ⇒樽内製化に向けた製造方法の研究
<p>■No. 29 四万十うなぎを活用した加工場整備と販路拡大(四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四万十うなぎ(株) 	<p>[指標]</p> <p>販売額</p> <p>出発点(R2見込):7.5億円</p> <p>到達目標(R3):9億円</p> <p>目標(R5):11.2億円</p> <p>[取組状況]</p> <p>販売額(R3.10月末):3.84億円(対前年同期比:-)</p> <p>○加工施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工施設敷地の確保 <p>○商品開発・販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四万十うなぎ白焼」が高知県のうまいもの大賞2022で優秀賞受賞 ・商談会等への参加:11回(4月~12月) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加工場建設用地の農地転用に係る手続きの遅れ ⇒融資情報の提供や着実な農地転用に向けた支援 ・海外輸出も見据えた加工場の衛生管理の強化 ⇒「HACCP認証取得」に向けた支援
<p>■No. 30 高幡地域における広域観光の推進(高幡地域全域)</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数</p> <p>出発点(H30):2,306,990人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>《実施主体》</p> <p>◎・奥四万十観光協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・須崎市 ・中土佐町 ・梶原町 ・津野町 ・四万十町 	<p>直近値 (R2) : 1,558,089人</p> <p>到達目標 (R3) : 2,519,234人</p> <p>目標 (R5) : 2,646,000人</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数</p> <p>出発点 (H30) : 56,441人</p> <p>直近値 (R2) : 38,779人</p> <p>到達目標 (R3) : 61,634人</p> <p>目標 (R5) : 64,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 主要観光施設入込客数(R3.11月末) : 1,214,573人 (対前年同期比 : 110.6%) (対R元年同期比 : 71.8%)</p> <p>(2) 主要宿泊施設宿泊者数 (R3.11月末) : 34,547人 (対前年同期比 : 120.0%) (対R元年同期比 : 74.9%)</p> <p>※(1)(2)とも、昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により入込数が大幅に落ち込んでおり、本年度は、通常営業を再開したため、入込数が一定回復したことによる増加</p> <p>○観光情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP等による奥四万十エリアの観光情報の発信 <p>○地域観光商品等の造成、磨き上げ、販売</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日グローバルキャンペーン等に対応したコンテンツ造成事業へ幡多広域観光協議会との共同参画による体験型コンテンツ等の磨き上げ (コンテンツ検討会 : 6/28) (モニターツアー : 7/13~7/16) (販売促進会議 : 12/23) ・奥四万十温泉郷周遊スタンプラリー (10/1~3/31) ・持続可能な観光に向けたワークショップin高知 (12/20、12/21) <p>○広域観光組織の機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会担当者部会 (4/22、5/27、7/30) ・奥四万十観光協議会推進部会 (5/20、11/19、1/26) ・広域観光協議会担当者会への参加 (5/27) ・奥四万十観光協議会観光情報交換会 (6/16) ・土佐の観光創生塾への参加 (6/23、7/6) (県の地域商品造成等の事業の活用)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・滞在型観光プランの作成 (県の観光地域づくり体制強化事業の活用) 分科会の実施(4/19、9/24、10/28、12/13、1/7) 県内6広域観光組織との取組状況中間共有会(10/14) ・奥四万十観光協議会理事会(8/2) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十観光協議会の組織のあり方に関する今後の方向性 ⇒来年度まで、高幡広域市町村圏事務組合からの費用を充てることにより、事業を実施する。エリア内5市町、観光協会、商工会、観光事業者等と広域観光組織の必要性や令和5年度以降の予算について継続的な審議が必要。 ・魅力ある観光資源の発掘、磨き上げ及び情報発信等 ⇒担当者部会と連動した体験プログラムの精査、磨き上げ、HP・SNS更新頻度の向上
<p>■No. 31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化(須崎市)</p> <p>《実施主体》 ◎・須崎市</p> <p>※地域産業クラスター関連(宇佐・浦ノ内水産資源活用クラスタープロジェクト)</p>	<p>[指標]</p> <p>交流人口 出発点(H30): 20,836人 直近値(R2): 8,201人 到達目標(R3): 23,000人 目標(R5): 24,000人</p> <p>[取り組み状況]</p> <p>交流人口(R3.12月末): 8,413人 (対前年同期比: 160.1%) (対R元年同期比: 40.7%)</p> <p>※昨年は施設の休館や、部活動等各種活動が中止されたため</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京五輪チェコ共和国カヌー・ボートチーム事前合宿の受け入れ <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を行ったうえでの応援会 ・合宿施設の立ち入り禁止等感染症対策の実施 ○新型コロナウイルス感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・消毒液、仕切り板や検温機器の手配 ・コモドウラノウチの一部制限開催 ○大会等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・すさきOWS2021の開催検討および感染症対策(実行委員会3回(4月、7月、10月))

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本水泳連盟主催日本選手権水泳競技大会OWS競技とすさきOWS2021の同時開催 ・感染症対策における管轄保健所及び所管する県スポーツ課との相談協議 <p>○周辺観光施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県観光施設等緊急整備事業の活用による屋外体験型施設整備（3月完成予定）、鳴無神社および坂内カヌー場棧橋の改修による受け入れ体制強化 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合宿利用者の宿泊場所不足及び飲食提供体制の構築 ⇒昨年度整備した研修棟での宿泊は、コロナ対策により客室の定員に関わらず個室利用での運営となることから、宿泊場所の不足について引き続き検討を行う。飲食提供の方法等について引き続き協議を行う。 ・周辺地域との連携の検討会の実施 ⇒感染症の状況や新たに近隣地に整備予定である野外体験施設との連携等に向けた協議を検討。 ・全国規模の大会の誘致 ⇒東京五輪カヌーメダリストの合宿、OWS日本選手権の開催という実績を活かした、大会誘致の検討。
<p>■No. 35 梶原町の体験型・滞在型観光の推進（梶原町）</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・梶原町商工会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町 ・松原まろうど会 ・坂本龍馬脱藩の郷 ゆすはらであいの会 	<p>[指標]</p> <p>(1) 宿泊者数 出発点（H30）：8,285人 直近値（R2）：7,999人 到達目標（R3）：7,500人 目標（R5）：9,000人</p> <p>(2) 施設利用者数 出発点（H30）：96,236人 直近値（R2）：62,337人 到達目標（R3）：90,000人 目標（R5）：105,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1) 宿泊者数（R3.12月末）：6,672人 （対前年同期比：101.6%）</p> <p>(2) 施設利用者数（R3.12月末）：50,811人 （対前年同期比：100.1%）</p> <p>※雲の上のホテル、レストラン建替のため休館（10月～）</p> <p>○体験プログラムの造成、磨き上げ及び受入態勢の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(一社) ゆすはら雲の上観光協会」設立（R3.4月）

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・隈研吾の建築物を活かした町歩きツアーの実施 (R3.12月末1,317人) ○誘客活動 <ul style="list-style-type: none"> ・誘客のための情報や映像の発信 ・隈研吾オリジナル土産の販売 ○森林セラピー受入態勢の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・登録ガイドの育成 ・久保谷森林セラピー等梶原町の森林資源を活かしたイベントの開催 <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ホテル・レストランのリニューアル ⇒道の駅の機能強化による太郎川公園の整備 ⇒隈研吾の建築物を活かした町歩きツアー等のガイドの育成 ・久保谷セラピーロード一部崩壊のため、復旧工事实施 (3月末まで)
<p>■No.36 清流と風と歴史に会えるまち津野町 まるごと体感！～観光集客アップ作戦～ (津野町)</p> <p>《実施主体》 ◎・津野町</p>	<p>[指標]</p> <p>(1)主要宿泊施設 年間宿泊数 出発点 (H30) : 10,950人 直近値 (R2) : 4,695人 到達目標 (R3) : 13,342人 目標 (R5) : 14,000人</p> <p>(2)主要観光施設 入込者数 出発点 (H30) : 261,094人 直近値 (R2) : 229,966人 到達目標 (R3) : 289,438人 目標 (R5) : 300,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1)主要宿泊施設 年間宿泊数 (R3.12月末) : 8,837人 (対前年同期比 : 209.7%) (対R元年同期比 : 88%)</p> <p>(2)主要観光施設 入込者数 (R3.12月末) : 269,808人 (対前年同期比 : 142%) (対R元年同期比 : 124.1%)</p> <p>※(1)(2)ともにR2は天狗荘、せいらんの里改修のため休館</p> <p>○受入態勢の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・津野ぶらHPを随時更新 </p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ガイド「てっぺん四万十風の会」町内研修実施 (7/1) ・安全管理マニュアル作成研修の実施 (10/20) ・iPadを活用した観光案内を星ふるヴィレッジTENGUで開始 <p>○観光商品の造成と周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おんぱく手法を活用した津野町体験キャンペーン「第2回つものつねづね」の実施(R3.8~9月、16プログラム) ・星ふるヴィレッジTENGUリニューアル記念「星を観る侍天文学者 片岡直次郎展」の実施(7/7~8/31吉村虎太郎生家、9/6~10/31片岡兄弟生家) ・津野町デジタルスタンプラリー「津野スタ」の実施 (R3.6~R4.1) ・ツノトウク定期周遊の実施 ・星ふるヴィレッジTENGUの宿泊者を対象に、夜のペンライトアートモニターツアーを実施(8月) ・せいらんの里お茶煎り体験プログラム造成 <p>○観光拠点整備と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せいらんの里リニューアル施設整備完了(5月完成) 前広場の造園整備に向けた協議実施 ・遊山四万十 せいらんの里リニューアルオープン(7/12落成神事・内覧、7/21オープン) <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報の実施(テレビCM、ラジオ、SNS、HP、YouTube、ほっとこうち他) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奥四万十エリアへの周遊促進 ⇒体験メニューや観光ガイドを活用した町内周遊プランの造成と情報発信 ・せいらんの里前イベント広場の整備に向けて ⇒植樹イベント開催予定(3月頃)、オープニングイベント開催検討(5月頃)
<p>■No. 37 四国カルストを核とした交流人口の拡大と地域の活性化プロジェクト (津野町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一財)天狗荘 	<p>[指標]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数 出発点(H30): 7,646人 直近値(R2): 2,750人 到達目標(R3): 9,900人 目標(R5): 11,000人</p> <p>(2)四国カルストの入込者数 出発点(H30): 75,012人</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>直近値 (R2) : 42,656人 到達目標 (R3) : 98,000人 目標 (R5) : 110,000人</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1)天狗荘の年間宿泊数 (R3.12月末) : 6,507人 (対前年同期比 : 236.6%) (対R元同期比 : 89.4%)</p> <p>(2)四国カルストの入込者数 (R3.12月末) : 100,258人 (対前年同期比 : 239.4%) (対R元同期比 : 149.4%)</p> <p>※(1)(2)ともに改修工事に伴う天狗荘休館 (R2.9月末～R3.7.6) のため</p> <p>○観光拠点整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「星ふるヴィレッジTENGU」落成式典開催 (6/25) ・「星ふるヴィレッジTENGU」グランドオープン (7/7) ・カルスト学習館リニューアル工事 (県自然共生課 R3.6月～R4.3月) <p>○受入態勢の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GW中の四国カルストエリアの渋滞対策について愛媛県久万高原町と情報共有 ・四国カルストエリア関係5市町 (久万高原町、西予市、内子町、梶原町、津野町) による広域連携会議の開催 (11/25) ・人材確保・人材育成 地域活性化企業人 ((株)五藤光学研究所) の受入 地域活性化企業人によるプラネタリウムの施設運営アドバイザー ・星ふるヴィレッジTENGUスタッフのおもてなし研修実施 (9/22、10/22～23) <p>○観光商品の造成と磨き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化企業人によるプラネタリウム映像撮影の講習実施 <p>○情報発信と誘客活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天狗星空コミュニティ (天狗星空会) の参加募集 (5月) ・地域活性化企業人によるプラネタリウムでの星の学習 (R3.7月 : 小学生、R3.11月 : 中学生) ・地域活性化企業人による親子星空観察会の開催 (11/25、11/26、11/29)

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<ul style="list-style-type: none"> ・星のソムリエ養成講座の実施 (11/7～9) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面強化によるサービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ⇒従業員マナー講座、人材育成等 ⇒津野町グルメや全天候型の観光素材、体験メニューの造成 ⇒誘客のための効果的なプロモーションの実施 ⇒町内への波及、周遊促進のための受入体制の整備 (観光組織、観光ガイド等の確保・育成) ・人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ⇒R3星空観察スペシャリスト養成講座 (県実施) の天狗荘開催に向けた協議 ・受入体制の強化と磨き上げ <ul style="list-style-type: none"> ⇒Eバイクを活用したレンタル事業の実施 ・四国カルストエリア全体の広域連携 <ul style="list-style-type: none"> ⇒周辺自治体 (久万高原町、西予市、内子町、梶原町) との連携事業の検討 ⇒カルスト学習館等の県有施設との連携、道路標識の見直し
<p>■No. 38 わざわざいこう「海洋堂ホビー館四万十」を核としたミュージアムのまちづくり (四万十町)</p> <p>《実施主体》</p> <p>◎・四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(株)海洋堂 ・(株)奇想天外 	<p>[指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ホビー館年間入場客数 出発点 (H30) : 2.7万人 直近値 (R2) : 2.1万人 到達目標 (R3) : 5万人 目標 (R5) : 5万人 <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ホビー館年間入場客数 (R3.12月末) : 21,346名 (対前年同期比 : 128%) ※昨年は4/11～5/31まで休館 (対R元年同期比 : 76%) <ul style="list-style-type: none"> ○海洋堂ホビー館四万十の付帯施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・エントランス、物販・休憩スペース等改修 (R3.10月～R4.3月改修予定) ○ミュージアム機能及び体験交流機能の強化・充実 <ul style="list-style-type: none"> ・海洋堂ウルトラマンフィギュア展の開催 (R3.7/22～R4.5/30) ○関係機関との連携した取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・ラッピング列車の運行 海洋堂ホビートレイン『ウルトラトレイン号』

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>(R3. 7/22～R4. 5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興アドバイザー（課題解決型）の活用による経済波及効果算出と今後の目標策定支援（R3. 12～） <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の満足度アップの為の仕掛けづくり（滞在時間の延長） ⇒休憩スペースにおける飲食物の検討、地域との連携体制の構築 ・集客力のある企画展・町周遊企画（スタンプラリー）の開催 ⇒ウルトラマンAR・ポストカードラリーの開催 <p>(R3. 7/22～R4. 5/30)</p>

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 41 ジップラインと道の駅を核とした 四万十町(十和地区)の観光拠点整備事業 (四万十町)</p> <p>《実施主体》 ◎・四万十町 ・道の駅四万十とおわ</p>	<p>[指標]</p> <p>(1) 道の駅「四万十とおわ」入込客数 出発点 (H30) : 8.5万人 直近値 (R2) : 8.0万人 到達目標 (R3) : 12万人 目標 (R5) : 12万人</p> <p>(2) ジップライン利用者数 出発点 (H30) : — 直近値 (R2) : 1万920人 到達目標 (R3) : 1万人 目標 (R5) : 1.2万人</p> <p>(3) ジップライン売上高 出発点 (H30) : — 直近値 (R2) : 2,499万円 到達目標 (R3) : 1,782万円 目標 (R5) : 2,200万円</p> <p>[取組状況]</p> <p>(1)道の駅「四万十とおわ」入込客数(R3.12月末) : 73,537人(対前年同期比 : 106%) ※昨年は4/21~5/6まで休業 (対R元年同期比 : 94%)</p> <p>(2)ジップライン利用者数 (R3.12月末) : 7,028人</p> <p>(3)ジップライン売上高 (R3.12月末) : 1,637万円 (対前年同期比 : —) ※ジップラインはR2,6月グランドオープンのため</p> <p>○道の駅「四万十とおわ」の運営強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅四万十とおわ連絡会議の開催(月1回) ・十和地域観光推進協議会と連携した体験プログラムの検討 : 4回(4/26、6/4、9/28、11/9) ・お土産商品の開発 : サブレ(8月) <p>○四万十川ジップラインの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジップライン定例会 : 5回 (5/18、6/25、10/15、11/20、12/20) ・スタッフの確保(11名) ・公式HP開設(5月) ・Instagramフォトコンテストの開催(4月~9月) ・はあと絵馬販売、しまんとびらの運用開始(11月~) <p>[課題と今後の対応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「四万十とおわ」の入込客数の減少

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	⇒ジップラインや周辺観光施設との連携による集客強化 ・十和地域内の観光施設間の連携強化 ⇒研修(観光プログラム策定他)等支援事業活用の提案 ・四万十川ジップラインの魅力発信 ⇒川船の魅力、動画撮影サービス内容の広報
■No. 42 須崎市海のまちプロジェクト(須崎市) 《実施主体》 ◎・須崎市 ・須崎市海のまちプロジェクト推進協議会	[指標] (1) 主要施設の来場者数 出発点 (R2) : 10.2万人 直近値 (R2) : 10.2万人 到達目標 (R3) : 11.0万人 目標 (R5) : 14.6万人 (2) エリア内新規出店数 出発点 (R2) : 6件 直近値 (R2) : 6件 到達目標 (R3) : 3件 目標 (R5) : R3～累計7件 [取組状況] (1) 主要施設の来場者数 (R3. 12月末) : 一人 (2) エリア内新規出店数 (R3. 12月末) : 一件 ○海のまちプロジェクトの推進 ・全体協議会の開催2回(7月、1月) ○海のまち創り・リノベーション ・JR須崎駅をJR海のまち須崎駅として改修(11～12月) ・地域住民と合同でJR海のまち須崎駅装飾式の開催(12/11) ・JR海のまち須崎駅点灯式の開催(12/18) ・(仮称)大漁食堂整備についての検討 ○海のまちの魅力の向上・再発見 ・報道機関と連携した情報の発信 ・地域内事業者等と連携した「海のまち須崎おもてなしキャンペーン」及び駅前で「海のまちマルシェ」の開催(12/19～1/31) ※一部感染拡大による中止あり ・高知市内有名店等を招き大型の「海のまちマルシェ」を開催(1/16) ・起業支援等に向けた保証料補助制度の実施(12/16) 「須崎市中心小企業者等経営支援事業保証料補助金」 ・高知大学・須崎総合高校と連携した地域資源調査についての検討

項目	取り組み状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
	<p>○エリア外との連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税寄付金の選択可能な用途として「海のまちプロジェクトの推進に関する事業」を設定 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>○継続して人を呼び込む仕掛け作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)大漁食堂の着実な整備 ⇒施設整備や広報等関係機関と連携した取組を着実に実施していく。 ・拠点施設となるの検討 ⇒エリア内の立地や周遊を考慮した拠点施設の検討を進めていく。また、将来的な魚市場の改修や図書館整備も含めた拠点施設の役割についても検討を行う。

2 令和3年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況 (交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
<p>■No. 28 四万十町産材を活用した商品開発プロジェクト</p> <p>※ステップアップ事業</p> <p>令和3年7月2日交付決定</p>	<p>販促ツールの製作、レーザー加工機による新商品開発</p>	<p>2,076千円</p> <p>(1,038千円)</p>
<p>■No. 7 四万十町畑作振興プロジェクト</p> <p>※ステップアップ事業</p> <p>令和4年2月4日交付決定</p>	<p>四万十町産有機生姜を使用した高付加価値商品の加工・販売に係る加工場整備に向けた事業計画策定支援</p>	<p>994千円</p> <p>(452千円)</p>

地域産業クラスタープロジェクトの推進

地域に根差した産業を核として、その周りに様々な産業を集積させる「地域産業クラスター」の形成に取り組むことにより、第一次産業から第三次産業までの多様な仕事を創出し、若者が地域地域で働き続けられる土壌づくりを目指しています。クラスター形成を目指す「クラスタープロジェクト」として、19のプロジェクトを位置づけており、その一つひとつに、県、市町村、関係団体等で構成する「プロジェクトチーム」を設置し、プランの策定からその実行までをサポートしていきます。

地域	分野	プロジェクトNo.・名称	取り組み概要（目指す姿）	取り組み状況	
高橋	農業	No.13 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	次世代施設園芸団地で栽培されているトマトの病虫害防除対策の確立により生産を安定させるとともに、加工品の販売促進や輸出の検討を行い、次世代団地の経営強化を図る。	これまでの取り組み（H28～R2）	次世代施設園芸団地での生果販売向けのトマトの生産拡大に向けた適正な栽培管理を実施した。また、トマトカレーやトマトビュレの開発、販売を行った。また、OEM先が製造を中止したことやコストや生産性の面から加工品を製造することを断念した。
		関連する地域 AP		No.9 四万十次世代ハウス団地におけるトマト栽培の経営強化クラスタープロジェクト	R3年度の取り組み
		No.14 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト	安心・安全な豚肉を安定的に消費者に提供できる体制を再構築し、関係機関が連携して一体的な取り組みを進め、四万十町産豚肉のブランド価値の向上と関連産業を含めた収益性の向上を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	既存畜舎の補改修等生産体制の構築に取り組む、平野畜産が四国初の養豚農場 HACCP認証を取得した。四万十ポークのブランド化に向けて、地域団体商標登録を目指すとともに、ロゴデザインを募集しブランドマークとして商品へのシールの貼付を開始した。道の駅あぐり窪川では、増産のための豚まん加工場が新設された。
		関連する地域 AP		No.8 四万十のうまい豚クラスタープロジェクト No.25 四万十町地域資源活用推進と豚まん加工場等の整備	R3年度の取り組み
		No.15 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	北幡地域で生産される栗の産地力強化に向け、新改植を進めるとともに、低樹高栽培の普及や労働力補完の仕組みづくり等により生産拡大を図る。また、2次加工施設の整備などを行い、安定的な加工商品の生産と需要の拡大を図り、中山間地域の活性化を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	生産量の増大に向け、新改植の推進や低樹高剪定技術の普及に取り組んだ。また、十和道の駅の「おちやくりカフェ」での新商品の開発・販売支援を行うとともに、ペースト工場の建設や高品質ペースト機器の導入を支援した。
		関連する地域 AP		No.6 四万十のうまい栗クラスタープロジェクト	R3年度の取り組み
	No.16 くろしおミウガ生産拡大クラスタープロジェクト	J A 土佐くろしお管内（須崎市・中土佐町・津野町）で栽培するミウガの生産拡大を核として、生産に関連する循環型養液システム、ヤシガラ培地活用スキーム、優良種茎の安定供給体制を構築する。また、日本一の「ミウガ」産地として、一次・二次・三次が連携し、認知度向上に向けた取り組みを推進することにより、ミウガの消費拡大を目指す。	これまでの取り組み（H28～R2）	(R3年度新規)	
	関連する地域 AP		No.1 くろしおミウガ生産拡大クラスタープロジェクト	R3年度の取り組み	【取り組み状況】 ミウガの生産拡大のためのヤシガラ培地活用施設(ストックヤード)が完成し稼働開始。ミウガ料理メニューの考案や、地域内外の事業者と連携した消費宣伝活用を行い、また収量、品質の向上に向けた栽培講習会、試験圃の設置を行った。 【課題と今後の対応】 ヤシガラ培地活用スキームの評価や、コロナ状況下での販売促進活動、収量、品質の向上に向けた取り組み周知、循環型養液システムの推進を行う。
	水産業	No.12 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト	うるめいわし、あさり、ブランド真鯛の水産資源を活用した加工業や、ホエールウォッシング、釣り筏などの遊漁、周辺の宿泊施設等が連携してクラスターの形成を図る。	これまでの取り組み（H28～R2）	アザリ、ウルメイワシ等の生産量等の確保に向け資源保護活動等を実施した。また、地域食材等を活用した加工品及び弁当の開発、体験メニュー設定、磨上げ等を実施した。
		関連する地域 AP		No.31 須崎市立スポーツセンターを活用した体験型観光等の推進による地域の活性化 No.32 須崎市の教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	R3年度の取り組み

○地域産業クラスタープロジェクトの令和4年度の削除項目

地域	分野	クラスタープロジェクトNo.・名称	削除する理由
仁淀川 ・ 高幡	水産業	No.12 宇佐・浦ノ内地区水産資源活用クラスタープロジェクト	<p>これまでの本プロジェクトの取組により、浦ノ内エリアではスポーツ合宿の誘致やカツオのたたきづくり体験、宇佐エリアではウルメイワシや鯉節などの食資源を生かしたまち歩き観光など、浦ノ内湾における両エリアの水産資源や自然環境を生かした様々な観光資源の磨き上げが進んだ。</p> <p>また、今春のオープンに向け、浦ノ内エリアには新たな野外体験施設の整備が進んでおり、スポーツセンターと一体となった体験・滞在型観光を進めることとしている。</p> <p>今後は、県、広域観光組織、市町村が連携し、両エリアを中心に教育旅行の誘致や滞在型観光誘客を進め、浦ノ内湾におけるさらなる交流人口の拡大につなげていく。</p> <p>なお、広大な浦ノ内湾における両エリアの地理的特性も踏まえ、浦ノ内エリア、宇佐エリアごとに取組を進めて行くことがより効果的と考えられるため、浦ノ内湾全体としてのプロジェクトは項目から削除する。</p>